

このプリントは、全国や大阪府の学力・学習状況調査などで、みなさんが苦手としていた問題を集めたものです。挑戦して、あなたのこれからの学習に役立ててください。

# 解答

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

「なにしてるの、」

ぼくは少年にきいてみた。少年はくちびるに指をあて、耳をすませてごらん、という仕草をする。あたりには、くすのきの古木がしげっている。ゆすら、ゆすら、夜風にふかれて音をたてた。

テッペンカケタカ、と啼くな声がある。ほととぎすだ。もう一度、聞きとろうとして、ぼくは耳をすませた。こんどもテッペンカケタカだ。二、三度啼いて、どこかへ飛びたった。ちょうど枝先へのぼってきた月のまわりが、やけに明るい。星がみんな消し飛んでいた。

少年が歩き出したので、ぼくもあとへつづいた。(注)水天宮の隅に、細く水の湧わいているところがある。小さなせせらぎになって、円い池へ落ちていく。暗がりなのに、木の間から月あかりがもれ、せせらぎのところだけ明るく照らされていた。

流れる水の、ゆがんだり反射したりするのが、細い糸を流したようになっていく。せせらぎは水音だけを響かせて闇へまぎれ、月明かりをあびたところだけ、あおじろい文字のようにくねくねと浮かびあがった。  
(長野まゆみ 「兄弟天気図」による。)

(注)水天宮＝水神、安産の神をまつった神社

一 星がみんな消し飛んでいた。とありますが、これはどのような様子を表現したものでしょうか。次の1から4のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 雲が空を覆い、月の周りだけがうつつすらと光っている様子。
- 2 日の出が近づき、月の周辺から空が明るくなり始めた様子。
- 3 ほととぎすが飛ぶように、数多くの星が空を流れる様子。
- 4 月の周りが明るいために、星が見えなくなっている様子。

4

二 次の1から4のうち、この文章に描かれた場面と表現についての説明として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 暗がりに浮かぶせせらぎの様子を、様々な色彩を用いて表現している。
- 2 闇の中に浮かぶせせらぎの様子を、水の音だけで巧みに表現している。
- 3 月あかりに照らされたせせらぎの様子を、比喩を用いて表現している。
- 4 ひっそりと流れるせせらぎの様子を、手の感触によって表現している。

3

読むときには  
表現や構成の特徴、段落の役割、論の展開等に気を付けましょう。そのためには、接続詞、文末表現、比喩表現、繰り返して出てくる言葉等に気を付け、必ず文全体をとらえるようにしましょう。



次は、兼好法師けんこうほうしが書いた「徒然草つれづれごと」の【冒頭の部分】とその【現代語訳】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

### 【冒頭の部分】

つれづれなるままに、日暮らし、硯すずりにむかひて、心にうつりゆくよしなしよしなしことを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

### 【現代語訳】

何もすることがないままに、一日中、硯に向かつて、心に次々と浮かんで消えていくとりとめのないことを、ただなんとなく書き付けていると、不思議と妙な感じがしてくることであるよ。

1 部「むかひて」を現代仮名づかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

むかいて

2 〳〳〳部「よしなしこと」の意味を【現代語訳】の中から抜き出しなさい。

とりとめのないこと

植物が開花する仕組みについて調べていた中学生の長井さんは、図書館で次のような文章〔A〕を見つけました。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔A〕

一九三六年、ソ連のチャイラヒアンは、「葉っぱ」が「芽」に送る物質を、フロリゲン（花成ホルモン）と名づけた。そして、「一定の長さの暗黒を感じた。葉っぱがフロリゲンをつくり、それが「芽」に送られると、つぼみができる」と考えた。フロリゲンが葉っぱでつくられ芽に送られると、つぼみができ、やがて花が咲く。この物質がつくられなければ、いつまでもつぼみはできない。だったら、もし私たちがフロリゲンという物質を手に入れることができれば、好きな時期にそれを植物に与え、自由自在に花を咲かせることができる。花の栽培はもちろんのこと、作物栽培でも、収穫までの栽培期間を思うように調節できる。効率的に作物をつくれるようになり、農業は、はかり知れない恩恵を受けるだろう。

そこで、チャイラヒアンがフロリゲンの存在を示唆して以来、現在まで六〇年以上にわたり、世界各国の多くの研究者が、植物からフロリゲンを取り出す努力をしてきた。「フロリゲンを手に入れ、思いのままに花を咲かせる」というロマンを夢見て、この物質を見つける試みを続けてきた。

しかし、残念なことに、フロリゲンは見つかったとの報告はいくつかあるが、いずれの場合も一貫した再現性が見られない。そのため、この物質の構造、性質は不明であり、実在するかどうかも定かでないまま、「幻のフロリゲン」と呼ばれている。

〔田中修「ふしぎの植物学」による。〕

- 〔注1〕 ソ連＝現在はロシア、ウクライナなど十五か国に分かれている。
- 〔注2〕 ホルモン＝生物の体内の組織や器官の活動を調整する物質。
- 〔注3〕 示唆＝それとなく示すこと。
- 〔注4〕 再現性＝何回実験しても同じ結果が得られること。

一 文章〔A〕で述べられている「フロリゲン」の説明として最も適切なものを、次の1から4の中から一つ選びなさい。

- 1 チャイラヒアンが取り出した、自由に花を咲かせることができる物質。
- 2 チャイラヒアンが名づけた、開花の時期を調整することができる物質。
- 3 世界各国の研究者が実験で生み出した、植物の成長を促進させる物質。
- 4 世界各国の研究者が探し求めた、暗黒の中で葉っぱを成長させる物質。

2

二 「フロリゲン」に興味を持った長井さんは、インターネットで上のような文章〔B〕をみつけました。文章〔B〕の表現の仕方について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4の中から一つ選びなさい。

- 1 文章〔B〕は、研究者たちの苦労や努力を伝えることを目的にしているため、比喩を多用して感動的に表現している。
- 2 文章〔B〕は、研究者たちへの共感を伝えることを目的にしているため、期待や希望を込めて主観的に表現している。
- 3 文章〔B〕は、情報を正確に伝えることを目的にしているため、感情を交えないで事実だけを客観的に表現している。
- 4 文章〔B〕は、分かりやすく伝えることを目的にしているため、古い情報の誤りを指摘しながら対比的に表現している。

3

〔B〕

2007年4月20日

花を咲かせるホルモンを発見  
奈良先端科学技術大学院大学グループ

思いどおりの時期に植物の花を咲かせるホルモン「フロリゲン」が発見された。このホルモンは約70年前にその存在が提唱されたが、多くの研究者の努力にもかかわらず取り出すことができなかった。

去る4月16日、日本の奈良先端科学技術大学院大学は、「フロリゲンを世界に先駆け発見した」と発表した。奈良先端科学技術大学院大学のグループは、花に関係する遺伝子が作るタンパク質に着目。葉で作られたこのタンパク質が、茎の先端に集まって開花を引き起こしていることを突き止め、「フロリゲン」と断定した。イネを使った実験では、通常約50日から60日を要する開花を15日から20日で実現。また、イネの遺伝子を用いてキクの開花時期を早めることにも成功した。

三 文章〔B〕を読んだ長井さんは、文章〔A〕の最後の段落

〔 〕で囲まれた部分に書かれている情報が、最新の情報ではなくなったことに気づきました。この段落を新しい事実を伝える内容に書き換えるとしたら、どのように書き換えられるでしょうか。次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

（例）

そして、二〇〇七年、日本の奈良先端科学技術大学院大学のグループは、フロリゲンを発見した。

条件1 文章〔B〕で報じられた新しい事実に基づいて書くこと。

条件2 「いつ」、「だれ」が、「何」を、「どこ」で、「どう」した」という4つの要素をすべて含め、それぞれ文章

条件3 「そして」という言葉に続けて書くこと。